

Q. 教員の授業準備負担を軽減するための工夫は何かありますか？

(例えば、ビデオ教材化した講義を数年使い回せるようにするため、作成時に配慮する等)

【教育学部 金馬 国晴先生】

授業支援システムによる教材配信やレポート提出は、紙ベースによるプリントの印刷・配布やレポート用紙の配付・回収・再配付が無くなっただけ、かなり負担軽減になりました。かつ、「ディスカッション」機能で学生同士がレポートを読み合えるし、欠席した場合も追いつき、レポートも後から書いて提出ができかつ提出日も記録されます。

授業支援システムにアップした資料やレポート課題を、前年度丸ごとがコピーできる機能も助かっています。逆に年度ごとに、学生の状況や関心に応じて、変更をすることが楽にできるようになりました。

ただ、ディスカッションでの提出レポートや書き込みが、5年間で消されてしまうのはもったいない気がします。

【経営学部 高井 文子先生】

旧カリキュラムの受講者が極端に少なくなる科目などでは、ビデオ化がない場合は隔年開講などになってしまう授業が、ビデオ化することによって開講可能な年限が増えることになり、学生にとっても、教員にとっても良い効果が期待できると思います。

ただ、講義にも依ると思いますが、経営学のような実学においては、動画は出来るだけ複数年の使用は避けることが、教育の質の担保につながるのではないかと個人的には考えます。

【理工学部 伊藤 傑先生】

本事例集でご紹介した私の授業(有機化学 II)で、毎回の授業の準備時間(中間・期末試験の作問・採点を除く)は2時間程度です。授業の講義資料は担当初年度に作成したPowerPointの穴埋め資料を、若干の修正を加えながら使い続けています。予習問題は毎年同じ問題としています。学生からの質問・コメントは毎年異なるので、その都度回答する必要はありますが、そもそも負担と感じていません。中間・期末試験は、毎年問題を変更していますが、一部の問題は、多数ある復習問題の一部を試験問題に流用することで、作問時間を減らすようにしています。

【理工学部 竹居 正登先生】

過去の講義の教材を上手に整理してストックし活用するのはもちろん大事で、授業準備にかかる負担は年々軽くなっていくと思います。一方、教材が練り上がってきて安心する

と、実際に授業をしたときにうまくいかないということが私の場合よく起こります。これは、段取りを忘れていたり、キーポイントを見失ったり、一生懸命準備したときの新鮮な気持ちを忘れていたり、と原因が様々です。一手間増えますが、進行メモや反省メモのようなものも作っておいて、翌年の講義の際に流れを再確認し、改良につなげるということも考えられます。

【国際戦略推進機構 中川 健司先生】

ビデオ教材の共通部分については、どの学期でも使用できるような作り方をし、個別に説明が必要な事項については、動画内ではなく、授業内容の案内の方に記載するようにしています。

【国際戦略推進機構 新沼 雅代先生】

私はもともと自作の教材や資料を色々作るタイプで、院生時代から教科書作成、教科書の音声台本作成、中国語の検定試験問題作成などの仕事にも携わっていました。今回の遠隔授業への移行にある程度すぐに対応できたことは、完全に「ゼロ」からスタートした訳ではなかったことが大きいと思います。教材や資料は作成しても一回使ってそれっきりというものもありますが、中にはそれをアップデートしたり説明や資料を加筆したり、精緻化をしながら使い続けているものもあります。完全にオリジナルのものもありますが、既存の教材から引用したものもあります。今回、遠隔授業を経験してみて、何か教材や資料を作ったら、断片的であってもいいのでとにかくデータで残しておくことが重要だと分かりました。

また講義映像ではなく講義音声を選択したのは、サーバーへのアップロードがしやすいこと、また内容の部分的なアップデート等の編集がしやすいためです。例えば映像ですと背景や服装が突然異なると見ている側は非常に違和感がありますが、音声ですと部分的な挿入もそれほど違和感がなく、背景や服装も気にする必要がありません。

世の中も変わり情報も新しくなるので、一度作ればずっとそれでいいという教材は恐らく無いと思います。もし教材を使い回したい場合は、それだけで機能する「モジュール」的なもので作成しておくとういと思います。載せる情報は、時によって移り変わるものではなく不変的な理論などを扱ったほうがよいと思います。教材は、「核」となるものを部分的にアップデートしやすい形式で作っておき、それにモジュール的なものを要所所で付加するという感覚で私は作り貯めています。あと LMS の運用上で大事なことは、作成した内容（資料やテストなども含め）を当日の講義の前に、「学生ビュー」で一通り確認したほうがよいと思います。当日になって予想通りに動かないと学生から質問が同時多発的に起こり、その対応で授業の進行が遅れてしまうことがあります。

【国際戦略推進機構 渡辺 雅仁先生】

LMS にしっかりと教材を登録し再利用しています。その際に、週の授業について、何を行ったか、次回何を行うのか、メモをしておくとその時の状況がよりよく理解できます。

【大学院教育強化推進センター 市村 光之先生】

授業コンテンツのモジュール化

本事例集の私の担当科目（「グローバル化と日本人」）で説明したように、90分の授業を2～3のパートに分けたり、受動的学びと能動的学びを組み合わせたり、そうしたコンテンツのモジュール化はコロナ前の対面授業の時から実践していました。2020年度はZoomによる双方向ライブ型で実施しましたが、授業内容や手法をほぼ変えることなく、最小限の労力で遠隔授業に移行できました。オンデマンドビデオ型でも、パートごとに30分程度のビデオにそのまま分けられます。つまり、感染状況等により急に授業方法を変えざるを得なくなっても、対応しやすいです。反転授業の際も、あるパートを授業外に切り出すだけです。構成しやすいです。